

専門分野

○基礎看護学

- ・看護学概論
- ・看護倫理
- ・看護における基本技術Ⅰ
- ・看護における基本技術Ⅱ
- ・看護における基本技術Ⅲ
- ・日常生活援助技術Ⅰ
- ・日常生活援助技術Ⅱ
- ・フィジカルアセスメントⅠ
- ・フィジカルアセスメントⅡ
- ・診療に伴う看護技術Ⅰ
- ・診療に伴う看護技術Ⅱ
- ・看護を展開する技術Ⅰ
- ・看護を展開する技術Ⅱ
- ・救急看護

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	看護学概論	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
<p>目的: 看護の対象となる人間および健康の概念を理解し、看護の果たすべき役割と責任を理解する。</p> <p>目標: 1 看護の本質および概念を理解できる。 2 保健・医療・福祉における看護の役割と機能を理解できる。 3 主な看護理論家とその理論の概要および活用の意義について説明できる。 4 専門職として看護に求められる役割と責任について説明できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 看護とは 1) 看護の定義 2) 看護の役割と機能 3) 看護実践と質の保証に欠かせない要件 4) 看護の役割・機能の拡大	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	2 看護の対象者の理解 1) 「こころ」と「からだ」	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
3	3 国民の健康状態と生活 1) 健康のとらえ方 2) 国民の健康状態 3) 国民のライフサイクル	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
4	4 看護の提供者 1) 職業としての看護 2) 資格・養成制度 3) 就業状況 4) キャリア開発と継続教育	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	5 看護における倫理 1) 職業倫理 2) 法的責任と看護倫理		
6	6 看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) サービスの提供の場	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	7 看護実践のための理論的根拠 1) 看護理論の概要と実践への活用		
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、課題、グループワーク、演習参加態度等		
テキスト	MC メディカ出版 看護学概論		
参考文献	メヂカルフレンド社 看護学概論 医学書院 看護学概論 南江堂 看護学原論		

履修上の 留意事項	指示された事前課題を行って臨むこと グループワーク・演習は積極的な姿勢で臨むこと 提出物は、期日・日時を厳守すること
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	看護倫理	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 看護実践において重要な倫理的判断について、基本的概念や倫理原則、患者の権利、専門職の責務等から検討できる能力を修得する。</p> <p>目標: 1 生命倫理の原則、看護職の倫理について理解する 2 患者の人権を守るための倫理的方法について理解する。 3 現代の保健医療における倫理的課題を取り上げ、自分の考えを述べられる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 専門職の倫理 1) 看護師と倫理規定 2) 保健師助産師看護師法と倫理的責務		準備:「看護師の倫理綱領」を読んでおく。 復習:学習内容を復習し理解を深める。
2	2 看護実践上の倫理的概念(1) 1) 患者の自律 2) アドボカシー 3) インフォームド・コンセント 4) 機密保持		準備:テキストを読んでおく。 復習:学習内容を復習し理解を深める。
3	3 看護実践上の倫理的概念(2) 1) 責務 2) アカウンタビリティおよび協同 3) 協力の概念と看護者の役割		準備:テキストを読んでおく。 復習:学習内容を復習し理解を深める。
4	4 ケアの倫理 1)終末期ケアをめぐる倫理的課題		準備:テキストを読んでおく。 復習:学習内容を復習し理解を深める。
5	5 看護実践における倫理的問題へのアプローチ 1) 倫理的問題へのアプローチ 2) ツールを用いたアプローチ 3) ツールの活用		準備:テキストを読んでおく。 復習:学習内容を復習し理解を深める。
6	6 看護実践における倫理的問題へのアプローチ の実 際 1) 小児・精神・母性・高齢者領域における事例検討 ※グループワークとディスカッションによる事例検討		準備:授業で使用する事例をよく読んでお き、倫理的問題について考えておく。 復習:グループで検討及び発表した内容をふ まえ、自身の事例検討に記入する。
7	看護実践における倫理的問題の事例について、生じてい る倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習。		
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	レポート、グループワークへの参画態度、筆記試験		
テキスト	医学書院 看護倫理		
参考文献			
履修上の 留意事項			

備考	
----	--

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	看護における基本技術Ⅰ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 看護実践の基盤となる考え方を理解し、看護における共通基本技術を習得する。</p> <p>目標: 1 環境調整の援助に必要な知識と技術を習得する。 2 感染予防に必要な知識と技術を習得する。 3 活動・休息に必要な知識と技術を習得する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 看護技術とは 技術演習にあたって必要事項の説明 実習室の使い方オリエンテーション	準備: シラバスをよく読み、科目の概要を調べておく。 復習: 実習室の物品の場所や使用ルールを復習する。	
2	2 療養環境調整 1) 生活環境を整える意義 2) 病室の環境のアセスメントと調整	準備: テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない語句は調べておく。 復習: 「生活環境を整える意味」について、自己の考えをレポートにまとめ、提出する。	
3	3 療養環境調整演習 1) ベッドメイキング	準備: ベッドメイキングにおける技術の根拠・留意点を整理する動画を観て学習をする。 復習: 実習室で技術練習を行う。	
4	2) 快適な療養環境の整備		
5	4 安全(患者誤認予防) 1) 感染予防(スタンダードプリコーション含む)	準備: 微生物の知識を基に感染とその防御について復習をする。動画を観て学習する。 復習: 感染予防について復習をする。	
6	5 感染予防演習 1) 手洗い	準備: 技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。 復習: 実習室で技術練習を行う。	
7	2) 無菌操作 3) 個人防護用具(PPE)の取り扱い方 4) 感染性廃棄物の取り扱い方		
8	6 活動と休息1 1) 良い姿勢と体位、ボディメカニクス 2) 活動の意義、活動制限による身体への影響 3) 活動のアセスメントの視点	準備: ボディメカニクス・体位変換における技術の根拠・留意点を整理する。 復習: 安楽な体位および、ボディメカニクスを活用した身体の使い方を復習する。	
9	7 活動と休息2 1) 休息・睡眠の意義 2) 睡眠の種類、メカニズム 3) 睡眠障害の種類と要因	準備: 睡眠の種類、メカニズム、睡眠障害の種類と要因について整理する。 復習: 授業内容を復習する。	
10	8 活動と休息3 【演習1】 ポジショニング及び体位変換	準備: 体位変換における技術の根拠・留意点を整理する。動画を観て学習する。 復習: 自己の技術を評価する。 実習室で技術練習を行う。	
11	9 活動と休息4 【演習2】 移乗と移送 ・車いす⇔ベッドへの移乗と移送	準備: 車椅子・ストレッチャーによる移動・移乗の方法と留意点を整理する。 動画を観て学習する。 復習: 実習室で技術練習を行う。	
12	・ストレッチャー⇔ベッドへの移乗と移送 ・杖・歩行器による歩行介助		
13	10 技術の総括	準備: 自己学習時間を使い、練習を積む。	

14		復習:実習室で技術練習を行う。
	試験 まとめ	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験 他	
テキスト	医学書院 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
参考文献		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	看護における基本技術Ⅱ
単位数(時間)	1単位(20時間)	単位数(時間)	1単位(20時間)
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
目的: 看護コミュニケーションを実践できる基本的能力を習得する。			
目標: 1 看護師—患者の援助関係に関する看護理論を用いて看護コミュニケーションを理解する。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 看護コミュニケーションとは 1) 「看護師—患者」の援助関係 2) 医療者のコミュニケーションの特徴 2 患者—看護師関係に関する看護理論 1) ウィーデンバック	準備: コミュニケーションの種類、コミュニケーションの技法(ホスピタリティとコミュニケーション内容)を復習・整理する。 復習: わからない用語・内容の整理し、解決する。	
2	2) オーランド 3) ペプロウ 4) トラベルビー 3 プロセスレコード 1) 目的 2) 活用の方法		
3	(1) 場面の選択とねらい (2) 場面のプロセスを文字におこす (3) プロセスの分析・考察・自身の傾向と課題の明確化		
4	3 プロセスレコード 3) 目的 4) 活用の方法 (1) 場面の選択とねらい (2) 場面のプロセスを文字におこす (3) プロセスの分析・考察・自身の傾向と課題の明確化	準備: 指定された課題を行う。指示された文献をよく読む。 復習: わからない用語・内容の整理し、解決する。	
5	4 場面から探る看護コミュニケーション プロセスレコードの実際	準備: 事例をロールプレイする。プロセスレコードを作成する。	
6	1) 療養生活を支援するコミュニケーション	演習: プロセスレコードカンファレンスを行い、振り返る視点を理解する。	
7	2) 患者の苦痛や不安を読み取り、受け止める 3) コミュニケーション場面の再構成の実際	復習: 新たな学びになったことを整理する。	
8	4) 個人の分析考察をグループ討議で深める	準備: メンバーのプロセスレコードで気になった点を整理しておく。意見をまとめておく。	
9 (3h)	5) 自己の課題を述べる	復習: 新たに学びになったことを整理する。	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	課題、筆記試験、発表内容、グループ貢献度		

テキスト	医学書院 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人々の看護
参考文献	医歯薬出版株式会社 新版 看護のコミュニケーション・センス 一般社団法人ホスピタリティ機構 実践!ホスピタリティ基本コース
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	看護における基本技術Ⅲ	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 健康支援のための基礎的教育技法を理解する。</p> <p>目標: 1 健康行動に関する理論を活用して、健康の維持増進、疾病予防・重症化予防の管理ための健康教育・健康支援の方法を考えることができる。 2 個人の特性に応じた健康教育方法の実際を理解する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 健康教育とは 1) 健康教育の目的 2) 健康教育の対象 3) 健康教育の種類と方法・特徴	準備:健康教育についてテキストを読み学習する。 復習:健康教育の概要を整理する。	
2	2 健康教育の基盤となる理論、行動変容への方策 1) エンパワメント 2) 自己効力感	準備:健康教育の基盤となる理論について調べておく。 復習:理論を活用した行動変容の方策について学習した内容を整理する。	
3	3 健康教育の企画・実施・評価 1) 企画書、指導案の作成 2) 実施、教材の利用 3) 評価の指標、評価の時期 4) 事後の支援	準備:指導案作成についてテキストを読み学習する。 復習:指導案作成の目的・方法について整理する。	
4	4 健康教育実施に向けて(演習) 1) 健康教育の企画書作成(GW)	準備:指導案を作成するテーマについて、必要な事前学習をする。 復習:健康教育指導案を作成し期日までに提出する。	
5	5 患者指導の実際(シナリオ作成)(演習) 発表準備(GW)	準備:対象への指導の実際について関わり方を考えてくる。 復習:発表に向けたリハーサルをしておく。	
6	健康教育の実際(発表)	準備:各グループの指導案・シナリオを読み込んでおく。	
7		復習:振り返りレポートを提出する。	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	課題、筆記試験、発表内容、グループ貢献度		
テキスト	医歯薬出版(株) 健康行動理論の基礎 MC メディカ出版 基礎看護技術 I		
参考文献			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	日常生活援助技術 I	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 対象の日常生活を整えるために必要な食事・排泄に関する看護技術を習得する。 看護における基本技術・日常生活援助技術で習得した看護技術を組み合わせて療養者に対し看護を提供する方法を習得する。</p> <p>目標: 1 食事の援助に必要な知識と技術を習得する。 2 排泄の援助に必要な地域と技術を習得する。 3 セルフケア能力が低下した療養者に対して実際に援助適応するための方法を学び、看護者としての姿勢及び態度を身につける。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 食事の援助 1) アセスメントの視点 2) 食事に対する具体的援助方法	準備:形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、嚥下と消化吸収のメカニズムを復習する。 復習:食事介助における技術の根拠・留意点を整理する。	
2	2 非経口的栄養摂取の援助	準備:非経口的栄養摂取についてテキストを読んで予習する。 復習:経管栄養法における技術の根拠・留意点を整理する。	
3	3 食事介助(演習)	準備:食事介助の動画を観て予習する。 復習:自己の体験をもとに対象者の気持ちをレポートにまとめ提出する。	
4	4 経管栄養法(演習)	準備:経管栄養法の動画を観て予習する。 復習:技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。	
5	5 排泄の援助 1) 排泄の基礎知識	準備:形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、排泄のメカニズムを復習する。 復習:授業の疑問点について調べる。	
6	2) アセスメントの視点 3) 排泄に対する具体的援助方法	準備:形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、排泄のメカニズムを復習する。 復習:技術の根拠・留意点を整理する。	
7	3) 導尿及び膀胱留置カテーテルの挿入・管理の方法	準備:導尿及び膀胱留置カテーテルの挿入・管理の動画を観て予習する。 復習:導尿及び膀胱留置カテーテルの挿入・管理における技術の根拠や留意点を整理する。	
8	4) 浣腸・摘便の方法	準備:浣腸・摘便の動画を観て予習する。 復習:浣腸・摘便における技術の根拠や留意点を整理する。	
9	6 排泄援助の実際 1) 床上排泄の援助(演習)	準備:床上排泄援助の動画を観て復習する。 復習:自己の体験をもとに対象者の気持ちをレポートにまとめ提出する。	
10	2)導尿・膀胱留置カテーテルの挿入(演習)	準備:導尿・膀胱留置カテーテルの挿入法の動画を観て復習する。	
11		復習:自己の技術を評価する。	

12	3) 浣腸・摘便(演習)	準備: 浣腸・摘便法の動画を観て復習する。 復習: 技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する
13	7 技術の総括	準備: 技術練習をして習得しておく。 復習: 自主練習に努める。
14		
15	試験 まとめ	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験 他	
テキスト	医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	
参考文献		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	単位数(時間)	1単位 30時間
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<p>目的: 対象の日常生活を整えるために必要な衣生活・清潔に関する看護技術を習得する。</p> <p>目標: 1 衣生活の援助に必要な知識と技術を習得できる。 2 清潔の援助に必要な知識と技術を習得できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 衣生活 1) 寝衣・下着等交換の援助方法	準備:テキストを読んで学習する。 復習:寝衣・下着等交換の技術の根拠・留意点を整理する。	
2	2) 寝衣交換(演習)	準備:寝衣交換の動画を観て予習する。 復習:自己の技術を評価する。	
3	2 清潔 1) 入浴と清拭、部分浴、洗髪・整容	準備:形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、皮膚・粘膜の構造と機能を復習する。 清拭・入浴・洗髪についてテキストを読んで予習する。 復習:入浴と清拭、部分浴、洗髪・整容における技術の根拠・留意点を整理する	
4	2) 陰部洗浄とおむつ交換 3) 足浴とフットケア・手浴	準備:陰部洗浄とおむつ交換、足浴とフットケア・手浴についてテキストを読んで予習する。 復習:陰部洗浄とおむつ交換、足浴とフットケア・手浴における技術の根拠・留意点を整理する	
5	4) 清拭(演習)	準備:清拭の動画を観て予習する。	
6		復習:自己の技術を評価する。	
7	5) 陰部洗浄とおむつ交換(演習)	準備:陰部洗浄・おむつ交換の動画を観て予習する。	
8		復習:自己の技術を評価する。	
9	6) 部分浴:足浴とフットケア・手浴(演習)	準備:足浴とフットケア・手浴の動画を観て予習する。	
10		復習:自己の技術を評価する。	
11	7) 洗髪・整容(演習)	準備:洗髪・整容の動画を観て予習する。	
12		復習:自己の技術を評価する。	
13	8) 口腔ケア(演習)	準備:口腔ケアの動画を観て予習する。 復習:自己の技術を評価する。	
14	技術の総括	準備:技術練習をして習得しておく。 復習:自主練習に努める。	
15	試験・まとめ		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験 他		

テキスト	医学書院 基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
参考文献	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	フィジカルアセスメント I	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>目的: 人間の日常生活行動に関わる解剖学・生理学的なメカニズムを理解した上で、その観察技術の基礎的知識と技術[安心できる測定技術]を習得する。</p> <p>目標: 1 人体の構造や機能に基づいたフィジカルアセスメントの技法及びその重要性を理解する。 2 バイタルサイン測定の技術を習得する。 3 フィジカルイグザミネーションの方法を習得する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 フィジカルアセスメントとは 1) フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーションとヘルスアセスメントとの関係 2) フィジカルアセスメント 2 フィジカルアセスメントに必要な基本技術 1) 全体的思考と分析的思考 2) フィジカルアセスメントの原則 3) 問診・聴診・打診・触診・視診 4) 問診前に得るデータ VABCDE 5) 主訴を評価する問診モデルと SQ	準備: シラバスをよく読み、科目の概要を調べておく。 復習: フィジカルアセスメントの基本技術を復習する。	
2	3 生命維持反応の観察 —反応に気づく— 1) 体温測定 (1) 体温とは (2) 体温の正常と異常の判断 (3) 体温測定の方法 2) 脈拍測定 (1) 脈拍とは (2) 脈拍の正常と異常の判断 (3) 脈拍測定の方法 3) 呼吸測定 (1) 呼吸とは (2) 呼吸の正常と異常の判断 (3) 呼吸の測定方法 4) 意識レベル (1) 意識とは (2) 意識の正常と異常の判断 (3) 意識レベルの測定方法	準備: 形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、体温・脈拍・呼吸・意識のメカニズムを復習する。 復習: 体温・脈拍・呼吸・意識レベルの測定方法を復習する。	
3	体温・脈拍・呼吸、SP0 ₂ モニター <input checked="" type="checkbox"/> 演習	準備: 体温・脈拍・呼吸・意識の測定方法と留意点を復習する。 復習: 体温・脈拍・呼吸・意識の測定のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。	
4	5) 血圧測定 (1) 血圧とは (2) 血圧の正常と異常の判断 (3) 血圧の影響因子	準備: 形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、血圧調整のメカニズムを復習する。 復習: 血圧測定の動画を観て復習する。	

	(4) 血圧測定の方法	
5	血圧測定 <u>演習</u>	準備:血圧測定の方法留意点を復習する。 血圧測定の動画を観て復習する。 復習:血圧測定のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。
6 (3h)	*バイタルサイン測定 <u>演習</u> (体温、呼吸数、脈拍数、SPO ₂ モニター、血圧)	準備:自主練習 復習:自主練習
7	3 各器官のフィジカルアセスメント 1) 呼吸系のフィジカルアセスメント	準備:形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、呼吸器系の人体の構造や機能を復習する。 復習:動画を観て復習する。
8	2) 循環器系のフィジカルアセスメント	準備:形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、循環器系の人体の構造や機能を復習する。 復習:動画を観て復習する。
9	3) 消化器系・生殖系・腎泌尿器系のフィジカルアセスメント	準備:形態機能学の知識やテキスト・資料を基に、消化器系・生殖系・腎泌尿器系の人体の構造や機能を復習する。 復習:動画を観て復習する。
10	4) 呼吸器系・循環器系・消化器系・生殖系・腎泌尿器系のフィジカルアセスメントの実際	準備:呼吸器系・循環器系・消化器系・生殖系・腎泌尿器系のフィジカルイグザミネーションの方法を復習する。
11	<u>演習</u> 必須技術:聴診、心音聴診、腹部叩診、腹部・膀胱触診、腎打診(叩打痛)	復習:動画を観て復習する。
12	5) 運動系のフィジカルアセスメント <u>講義・演習</u> 必須技術:MMT 可動域測定(股関節、膝関節、肘関節、肩関節)	事前:形態機能学の知識や教科書・資料を基に、運動器系の人体の構造や機能を復習する 復習:動画を観て復習する。
13	6) 神経系のフィジカルアセスメント <u>講義・演習</u> 必須技術:意識レベル	事前:形態機能学の知識や教科書・資料を基に、脳神経系の人体の構造や機能を復習する 復習:動画を観て復習する。
14	*フィジカルイグザミネーション <u>演習</u>	事前:技術練習をして習得しておく。 復習:自主練習に努める。
15 (1h)	試験 (技術試験を含む)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験 技術試験	
テキスト	医学書院 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 メディックメディア 看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント	
参考文献		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	フィジカルアセスメントⅡ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>目的: 臨床的思考過程を用いたフィジカルアセスメントができる基礎的能力を習得する。</p> <p>目標: 1 臨床推論のプロセスと気づくために必要な力を理解する。 2 臨床的思考過程に基づきフィジカルアセスメントができる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 臨床推論とは 1) 臨床推論とは 2) 臨床推論のプロセス 2 臨床判断とは 1) 臨床推論と臨床判断の関連 2) 臨床判断の構成概念 3) 臨床判断のプロセス 4) 看護過程と臨床判断の関連	準備:指定されたテキストの範囲を読む。 メディックメディア:臨床推論解説を視聴する。 復習:授業内容を復習する。	
2	5) 臨床判断の体験 臨床判断のプロセス「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」について事例を用いて体験する	準備:事例の提示と事前学習方法の説明を聞き、準備する。技術の自己練習をする。 演習:グループに分かれ、関連する知識の確認を問答形式で確認する。技術の確認は、試験を行う。演習を通して、気づきの視点、解釈の視点、反応の視点を確認する。リフレクションをグループで行う。 復習:リフレクション後の自己課題を復習する。	
3	関連図を用いて思考を整理する (1) 事前に必要な知識と技術チェック		
4	(2) 気づき、解釈 (3) 反応 (4) リフレクション		
5	3 消化器系の事例(演習) (臨床看護場面で遭遇する症状における臨床推論の実際:右下腹部痛がある患者)	準備:消化器系のフィジカルイグザミネーションの動画を観て復習をする。事例に関する事前学習をする。 タスクチェックに合格していること 演習:グループに分かれ、関連する知識の確認を問答形式で確認する。技術の確認は、試験を行う。演習を通して、気づきの視点、解釈の視点、反応の視点を確認する。リフレクションをグループで行う。 復習:リフレクション後の自己課題を復習する。	
6	1) 必要な問診・視診・触診・打診・聴診、バイタルサイン測定を組み合わせ、イグザミネーション		
7	2) フィジカルアセスメント 3) ISBAR 報告を行う		
8	4 呼吸器系の事例(演習) (臨床看護場面で遭遇する症状における臨床推論の実際:呼吸苦・副雑音がある患者)	準備:呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの動画を観て復習をする。事例に関する事前学習をする。 タスクチェックに合格していること 演習:グループに分かれ、関連する知識の確認を問答形式で確認する。技術の確認は、試験を行う。演習を通して、気づきの視点、解釈の視点、反応の視点を確認する。	
9	1) 必要な問診・視診・触診・打診・聴診、バイタルサイン測定を組み合わせ、イグザミネーション		
10	2) フィジカルアセスメント 3) 排痰の援助		

11	4) ISBAR 報告を行う	る。リフレクションをグループで行う。 復習:リフレクション後の自己課題を復習する。
12	5 脳神経系・循環器系の事例(演習) (臨床看護場面で遭遇する症状における臨床推論の 実際:TIA 疑い)	準備:脳神経系・循環器系のフィジカルイグ ザミネーションの動画を観て復習をす る。事例に関する事前学習をする。 演習:グループに分かれ、関連する知識の確 認を問答形式で確認する。技術の確認 は、試験を行う。演習を通して、気づきの 視点、解釈の視点、反応の視点を確認す る。リフレクションをグループで行う。 復習:リフレクション後の自己課題を復習す る。
13	1) 必要な問診・視診・触診・打診・聴診、バイタル サイン測定技術を組み合わせ、イグザミネーショ ン	
14	2) フィジカルアセスメント 3) 予測に対する援助 4) ISBAR 報告を行う	
15	試験(1) まとめ(1)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験、課題、グループ貢献度	
テキスト	医学書院 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護学 II 医学書院 基礎看護学(4) 臨床看護総論	
参考文献	学研 看護過程に沿った対症看護 医学書院 症状別看護過程+病態関連図 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 日本看護協会出版会 日常生活行動から見たヘルスアセスメント	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	診療に伴う看護技術 I	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>目的:検査の目的及び検査に必要な援助技術と、呼吸循環を整える看護に必要な基本的知識・技術を習得する。</p> <p>目標: 1 検査の目的及び検査に必要な援助技術を習得できる。 (検査の目的および検査に必要な基本的な援助技術) 2 呼吸・循環を整えるために必要な知識・技術を習得できる。 (呼吸循環を整える看護に必要な基本的知識・技術を習得する。電法・気管内吸引含む) 3 創傷の種類や治癒過程を理解し、創傷管理の基本的知識・技術を習得できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 検査における看護技術 1)検査・診察における看護 2)検体検査における援助の実際	準備:科目「臨床検査」講義内容を復習する。 復習:授業の復習をする。	
2	3)生体検査における援助の実際 (1)画像検査	準備:科目「臨床検査」講義内容を復習する。 心臓・消化器の形態機能学の復習をする。 演習の事前学習をする。 復習:演習の振り返りをする。	
3	(2)内視鏡検査		
4	(3)心電図 (演習) (4)生体情報の持続的モニタリング		
5	2 呼吸・循環を整える技術 1) 呼吸・循環を整える援助の実際 (1)呼吸を楽にする体位	準備:呼吸器の形態機能学の復習をする。 演習の事前学習、映像教材を視聴する。 復習:演習の振り返りをする。	
6	(2)効率のよい呼吸法 (3)排痰ケア (演習)		
7	(4)酸素吸入療法 (演習)	準備:演習の事前学習、映像教材を視聴する。 復習:演習の振り返りをする。	
8	(5)吸引 (演習)		
9	(6)吸入 (演習) (7)電法 (演習)		
9	(8)末梢循環促進ケア		
10	2)人工呼吸器を装着・気管切開をしている対象の看護	準備:映像教材の視聴をする。テキストを読んでおく。 復習:授業の復習をする。	
11	一般状態の観察、合併症		
12	3 創傷処置の基礎知識 1) 創傷 2) 創傷治癒過程 3) 褥瘡の予防・処置 (1)褥瘡発生のリスクアセスメントと予防 (2)褥瘡のアセスメントと処置 (3)除圧、体位変換に関する器具の種類と選択	準備:皮膚の形態機能学のテキストを読む。 基礎看護学(看護における基本技術 I)で学習した安楽な体位・ポジショニングのポイントを復習しておく。 復習 :授業の復習をする。	
13	4)褥瘡処置(演習) (1)体圧分散	準備:演習の事前学習をする。 復習:演習の振り返りをする。	
14	(2)褥瘡処置		
15	試験(1) まとめ(1)		

履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり
評価方法	筆記試験、レポート参加状況・態度等
テキスト	医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護技術II
参考文献	医学書院 別巻 臨床検査 医学書院 成人看護学(2) 呼吸器 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 医学書院 基礎看護学(4) 臨床看護総論
履修上の 留意事項	科学的根拠のもと安全安楽な看護技術が提供できるために、形態機能学などの人体の構造・機能について予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	診療に伴う看護技術Ⅱ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 安全に与薬をするための基礎的技術を習得する。</p> <p>目標: 1 与薬に必要な基礎的知識と与薬における看護の役割を理解する。 2 安全な与薬の方法を習得する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 与薬を受ける患者の看護 1) 看護師の役割 2) 与薬の援助(点眼、点鼻、点耳、塗布、貼付)	準備:テキストの指定範囲を熟読し、わからない語句を調べておく。 復習:注射法以外の与薬の技術の根拠・留意点を整理する。	
2	2 注射 1) 皮内注射 2) 皮下注射 3) 筋肉内注射	準備:注射法についてテキストを読んで予習する。 復習:注射法の技術の根拠・留意点を整理する。 動画を観て復習する。	
3	4) 注射法(演習) 薬液の吸い上げ・筋肉/皮下注射	準備:動画を見て予習して臨む。 復習:技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。技術練習をする。	
4	2 注射 5) 静脈内注射 6) 点滴静脈内注射 3 採血	準備:動画を観て予習して臨む。 復習:静脈内・点滴静脈内注射法・採血の技術の根拠・留意点を整理する。 動画を観て復習する。	
5	4 静脈内採血・注射・点滴管理に関する看護 1) 静脈血採血法(演習)	準備:動画を観て予習して臨む。 復習:技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。技術練習をする。	
6			
7	2) 静脈内注射・点滴(演習)	準備:動画を観て予習して臨む。 復習:技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。技術練習をする。	
8			
9	3) 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い(演習)	準備:動画を観て予習して臨む。 復習:技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。技術練習をする。	
10			
11	5 輸液・輸血管理 1) 輸液・輸血の種類と取り扱い方法 2) 輸液・輸血の管理方法 3) 輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察	準備:輸液・輸血管理についてテキストを読んで学習する。 復習:輸血法の技術の根拠・留意点を整理する。動画を観て復習する。	
12	4) 輸血の取り扱い(演習)	準備:動画を観て予習して臨む。 復習:技術のチェックリストを用いて、自己の技術を評価し提出する。	
13	6 技術の総括		
14			

15	試験(1) まとめ(1)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験等	
テキスト	医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護技術II	
参考文献		
履修上の 留意事項	<p>科学的根拠をもと安全安楽な看護技術を提供するために形態機能学、薬理学の知識が必要になる。予習・復習して授業に臨むこと。</p> <p>演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。</p> <p>提出物は、提出日時を厳守すること。</p>	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	看護を展開する技術 I	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>目的: 科学的根拠に基づいた看護実践における基本技術を習得する。</p> <p>目標: 1 看護過程の考え方と展開の方法を理解する。 2 理論の基づく看護過程の展開を習得する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 看護過程の概要 2 看護過程の基盤となる考え方	<p>準備:毎回の授業前にテキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない語句を選べておく。</p> <p>復習:授業内容・テキストを読み返し、復習する。</p>	
2	3 健康上の問題を明確化するためのアセスメント		
3	4 健康上の問題の明確化・看護診断		
4	5 関連図と統合		
5	6 看護計画の立案と看護問題の評価、看護要約		
6	7 情報管理と看護記録		
7	8 紙面事例展開	<p>準備:事例を用いた看護過程の課題を行い提出する。</p> <p>復習:授業で学習した内容を基に修正し提出する。</p>	
8	1)ゴードンの機能的健康パターン		
9	2)情報分類		
10	3)アセスメント		
11	4)看護上の問題		
12	5)計画立案		
	6)実施記録と評価		
	7)看護事例の要約		
13	8)看護過程を用いた看護展開の実際について、模擬患者を導入したシミュレーションで学習		
14			
15	まとめ(1)		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	事例展開課題 他		
テキスト	メディックメディア 看護が見える vol.4 看護過程の展開 医学書院 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I		
参考文献	必要時、提示する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	看護を展開する技術Ⅱ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
目的: 患者に生じた健康問題を明らかにし、看護援助を行うための思考力を養う。			
目標: 1 患者の状態・可能性として考えられる状態をアセスメントできる。 2 アセスメントした結果をもとに、観察し反応をとらえながら看護援助を実践できる。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 悪心・嘔吐のある患者の看護 1) 観察、情報収集	準備:教科書を読む。形態機能学、疾病治療論を復習する。 復習:授業内容を復習する。提示された課題に取り組む。	
2	2) 原因・誘因の推論		
3	3) 随伴症状の観察 4) 二次的問題の推論 5) 看護計画の立案 6) 評価		
4	2 倦怠感のある患者の看護 1) 観察、情報収集	準備:教科書を読む。形態機能学、疾病治療論を復習する。 復習:授業内容を復習する。提示された課題に取り組む。	
5	2) 原因・誘因の推論		
6	3) 随伴症状の観察 4) 二次的問題の推論 5) 看護計画の立案 6) 評価		
7	3 呼吸困難のある患者の看護 1) 観察、情報収集	準備:教科書を読む。形態機能学、疾病治療論を復習する。 復習:授業内容を復習する。提示された課題に取り組む。	
8	2) 原因・誘因の推論		
9	3) 随伴症状の観察 4) 二次的問題の推論 5) 看護計画の立案 6) 評価		
10	4 発熱のある患者の看護 1) 観察、情報収集	準備:教科書を読む。形態機能学、疾病治療論を復習する。 復習:授業内容を復習する。提示された課題に取り組む。	
11	2) 原因・誘因の推論		
12	3) 随伴症状の観察 4) 二次的問題の推論 5) 看護計画の立案 6) 評価		
13	5 浮腫のある患者の看護 1) 観察、情報収集	準備:教科書を読む。形態機能学、疾病治療論を復習する。 復習:授業内容を復習する。提示された課題に取り組む。	
14	2) 原因・誘因の推論		
14	3) 随伴症状の観察 4) 二次的問題の推論 5) 看護計画の立案 6) 評価		
15	まとめ(1) 試験(1)		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		

評価方法	事例展開課題、筆記試験等
テキスト	医学書院 成人看護学(2) 呼吸器 (3)循環器 (5)消化器 (6)内分泌・代謝 (7)脳・神経 (8)腎・泌尿器 (10)運動器 (11)アレルギー・膠原病・感染症 学研 看護過程に沿った対象看護(病態生理と看護のポイント)
参考文献	学研 看護過程に沿った対象看護 医学書院 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院 別巻 臨床外科看護総論
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	基礎看護学
授業科目	救急看護	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	4年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 救急看護の概念を理解し、緊急度や重症度に応じた初期評価と対応の基本技術を習得する。</p> <p>目標: 1 救急看護の概念を理解し、救急看護の場と対応の原則を理解する。 2 救急看護に必要な基本技術を習得する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 救急看護とは 1) 救急医療と救急看護 2) 救急看護の特徴 3) 救急医療システム 4) 救命の連鎖 2 救急看護の場 1) プレホスピタルケアとインホスピタルケア 2) 災害医療 (1) 災害医療体制 3 救急患者と家族の特徴	準備: 指定された範囲のテキストを読む。 復習: 授業内容を復習する。	
2	4 初期・第二次・三次救急における対応 1) トリアージ 2) 初期対応 (1) プライマリーサーバイ、セカンダリーサーバイ 5 院内急変時における対応 1) 初期評価 2) 緊急度判定	準備: 指定された範囲のテキストを読んでくる。 復習: 授業内容を復習する。	
3	6 止血法 (演習) 1) 直接圧迫止血法 2) 間接圧迫止血法	準備: 指定された範囲のテキストを読み、動画を視聴しておく。 復習: 演習振り返る。	
4	7 包帯法 (演習) 1) 巻軸帯の巻き方 2) 三角巾を用いた固定 3) シーネの固定	準備: 指定された範囲のテキストを読み、動画を視聴しておく。 復習: 演習振り返る。	
5	8 一次救命処置 1) BLSプロバイダコースの受講	準備: 指定された範囲のテキストを読み、動画を視聴しておく。 復習: コース受講の振り返り	
6	・成人に対するBLS/ポケットマスク/AED/バッグマスク ・口対口人工呼吸/補助呼吸/高度な気道確保器具を使用した人工呼吸		
7	・乳児および小児に対するBLS/AED/バッグマスク		
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		

評価方法	演習参加度 プロバイダー実技試験 筆記試験
テキスト	医学書院 救急看護学 医学書院 基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
参考文献	必要な資料は随時紹介
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。 プロバイダコースの合格が履修の要件である。
備考	看護師として救急対応ができるよう、BLS を学び実践できるようにする。 演習の際は、動きやすい服装で参加する。